



特産果樹生産情報第6号
(9月2日～9月30日)

令和8年9月1日発表
青森県「農林水産力」強化本部

適期収穫の徹底を！
ももは収穫後に必ず薬剤散布を！
高温対策及び風害防止対策を万全に！

I 要 約

- ぶどうは着色だけではなく、食味を確認してから収穫する。
- ぶどうのべと病対策として、排水不良園では排水溝を掘って雨水が溜まらないようにする。
- もものせん孔細菌病対策として、収穫後の「9月中旬（川中島白桃収穫後）」と「9月中旬散布の2週間後頃」の薬剤散布は必ず行う。
- 西洋なしのゼネラル・レクラークの熟度は平年よりやや進んでいると見込まれる。
- 今後も高温が続く予報であることから、日焼けや乾燥対策を万全にする。
- 台風の接近や強風に備え、風害防止対策を万全にする。
- 農作業事故が多発しているので、慣れた作業でも油断せず注意して行い、1人での作業はできるだけ避ける。

ツキノワグマ出没警報発令中！

- 農作業の際は、ラジオを携帯するなどツキノワグマによる人身被害の防止に努める。
- 果実等の収穫残渣や弁当の空容器などは、園地に放置しない。

報道機関用提供資料	
担 当 課	農林水産部りんご果樹課
担 当 者	生産振興グループ GM 工藤 秀樹
電話番号	直通 017-734-9492 内線 5146
報 道 監	農林水産部 次長 相馬 宏伊 内線 4967

II 特産果樹生産情報

1 生育概況

- ・露地ぶどうの着色日は、「キャンベル・アーリー」が五戸（りんご研究所県南果樹部）で平年より8日早く、「スチューベン」が五戸で平年より5日、黒石（りんご研究所）で平年より2日早かった。
- ・西洋なしの果実肥大は、五戸で平年を上回っており、熟度は平年よりやや進んでいると見込まれる。

○露地ぶどうの着色日 (月・日)

地域	品種	本年	平年	前年
五戸 (県南果樹部)	キャンベル・アーリー	8.10	8.18	8.12
	スチューベン	8.26	8.31	8.21
黒石 (りんご研究所)	スチューベン	8.21	8.23	8.14

注1) 着色日：20%以上着色した果房が樹全体の80%以上になった日

2) 平年値：2006～2025年（20年間）の平均

○西洋なし（ゼネラル・レクラーク）の果実肥大（8月30日現在、横径cm、%）

地域	本年	平年	前年	平年比
五戸 (県南果樹部)	8.6	8.0	8.9	108

注) 平年値：2006～2025年（20年間）の平均

○西洋なし（ゼネラル・レクラーク）の熟度の進み（調査月日：8月30日）

地域	年	果重 (g)	表面色	地色	硬度 (ボント°)	糖度 (%)	酸度 (%)	ヨード 反応
五戸 (県南果樹部)	本年	350	3.0	3.0	12.2	11.6	0.36	4.2
	平年	302	2.8	2.8	13.1	11.2	0.34	4.3
	前年	352	3.0	3.1	11.9	12.3	0.46	4.5

注1) 平年値：2006～2025年（20年間）の平均

2) 表面色及び地色：日本なし地色用カラーチャートの指数1（緑色）～6（黄色）

3) ヨード反応：ヨードでんぷん反応指数の0～5、小さい数値ほどでんぷんが少ない

2 作業の重点

(1) ぶどう

ア 結果枝の管理

着色後も新梢がかなり伸びている場合は、結果枝の葉数が25枚程度になるように随時摘心して過繁茂防止に努め、果房や結果枝の基部まで日光が十分に当たるようにする。

イ 収 穫

キャンベル・アーリー、スチューベンは、果皮色が紫黒色となり、果粉に覆われ、品種固有の食味に達してから収穫する。

シャインマスカットは、外観だけでは収穫適期の判定が難しいので、糖度を確認し、良好な食味に達してから収穫する。収穫が遅れると果皮の黄変や果肉の軟化により商品性が低下したり、袋をかけても「かすり症」が発生する場合があるので注意する。

結実初期の若木では熟期が早まる傾向があるので留意する。

品種別収穫時の糖度の目安

品種	糖度 (%)
キャンベル・アーリー	14
スチューベン	18
シャインマスカット	18

<収穫時の留意事項>

- 朝夕の果実温度の低い時間帯に収穫する。
- 降雨があった直後は、完熟果でも糖度が低下し、輸送中の腐敗も多くなるので、なるべく晴天時に収穫する。
- 脱粒したり果粉が落ちたりしないよう、穂軸を持って丁寧に取り扱う。

ウ 貯 蔵

貯蔵用の果実は、収穫後速やかに冷蔵施設へ搬入する。果軸が太く、果房全体が引き締まり果粒に張りのあるものとし、穂軸は長めとする。裂果粒や腐敗粒は取り除く。

スチューベン、シャインマスカットは、普通冷蔵（温度0℃、湿度約95%）で約2か月間の貯蔵が可能である。なお、貯蔵限界の目安は穂軸、果軸の萎縮や褐変が軽く見られ始め、果房当たり1～2粒が脱粒し始めた頃である。

灰色かび病は5℃以上の多湿条件で多発しやすいので、貯蔵温度は0℃付近に保持する。貯蔵中に発病した果粒、果房は随時取り除く。

エ 病虫害防除

(ア) ベと病対策（スチューベン、シャインマスカット）

発病葉や発病果房は見つけ次第摘み取り、被害落葉は集めて、適切に処分する。排水不良園では、排水溝を掘って、雨水が溜まらないようにする。

(イ) 灰色かび病対策

長期貯蔵向けのスチューベンでは「8月下旬～9月上旬」にフルーツセイバー1,500倍を特別散布する。フルーツセイバーの使用時期は収穫7日前までなので、散布時期に注意するとともに、薬剤耐性発達の懸念があるので、年1回の使用にとどめる。

(ウ) 晩腐病対策

発病果粒や発病果房は見つけ次第摘み取って、適切に処分する。園地内の排水や風通しを良くし、過湿にならないようにする。

(2) も も

ア 追 肥

ももは花芽が着きやすく、樹体の養分（炭水化物）の消耗が激しいので、収穫後、速やかに成木（7年生以降）で10a当たり窒素2.8kg、リン酸1.2kg、カリ2.0kgを目安として施用する。施肥量は園地の土壌条件や樹勢によって加減する。

イ 病虫害防除

(ア) 薬剤散布

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 ／10a
9月上旬	ロブラール水和剤 1,500倍 又はDMI剤	－	400 L
9月中旬（川中島白桃収穫後）	ICボルドー412 30倍	－	400 L
9月中旬散布の2週間後頃	ICボルドー412 30倍	－	400 L

注1）DMI剤：インダーフロアブル5,000倍、アンビルフロアブル1,000倍、スコア顆粒水和剤2,000倍、オンリーワンフロアブル2,000倍

2）ロブラール水和剤とDMI剤は、薬剤耐性発達の懸念があるので、それぞれ年1回の使用にとどめる。

(イ) せん孔細菌病対策

薬剤散布と耕種的防除を組み合わせた総合的防除を徹底する。特に風を強く受ける地帯で多発するので、防風対策は必ず行う。

枝病斑は重要な伝染源になるので、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

翌年の一次伝染源となる春型枝病斑を減少させるために、収穫後の「9月中旬（川中島白桃収穫後）」と「9月中旬散布の2週間後頃」の薬剤散布は必ず行う。

(ウ) 灰星病対策

発病果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(エ) シンクイムシ類対策

幼虫が果実から脱出する前に被害果を採取し、7日間以上水に漬けるか、穴を掘り10cm以上の土をかぶせて埋める。被害果をそのまま放置すると次世代の発生源となるので、必ず処分する。

ナシヒメシンクイによる新梢の芯折れは見つけ次第切り取り、適切に処分する。

(オ) モモハモグリガ対策

多発園では「9月上旬」にイカズチWD G1,500倍も使用する。

(3) な し

ア 収 穫

(ア) 西洋なし

収穫時期が早過ぎると追熟が正常に進まず硬いままであり、遅すぎると内部褐変などが発生するため、適期に収穫する。収穫適期は気象に大きく左右されるので、満開後の日数、ヨードでんぷん反応指数、地色などの状況から総合的に判断する。

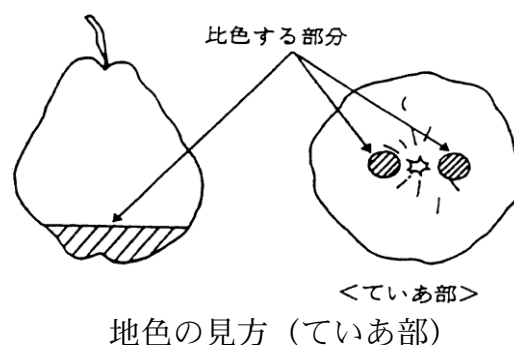
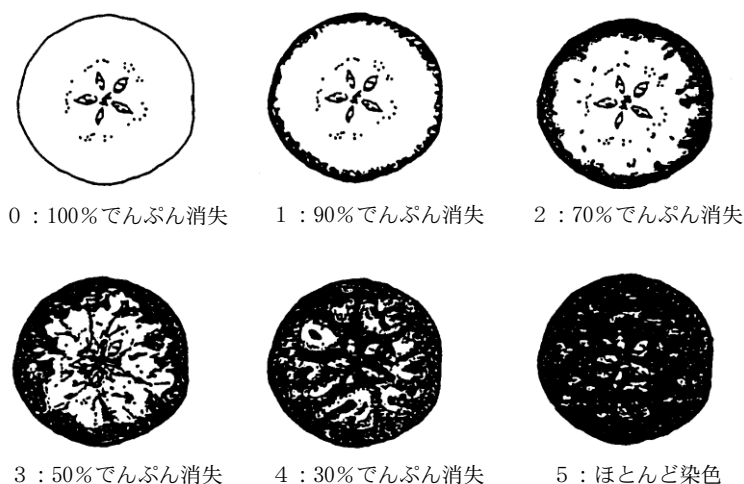
ゼネラル・レクラークでは、これらの指標に加えて表面色（日本なし地色用カラーチャートを使用して果実の胴部を比色）、糖度もあわせて判定する。収穫適期の指標は表面色指数3、糖度12.5%前後である。

中・晩生品種の収穫適期の判定指標

品種	満開日から収穫始めまでの日数	ヨードでんぷん反応指数	地色指数
ゼネラル・レクラーク	145日	3～3.5	2～3
ラ・フランス	165日	1～1.5	2～2.5

注1) ヨードでんぷん反応指数：下図参照

2) 地色指数：「日本なし地色用カラーチャート」を使用し、ていあ部（果実の尻の部分、下図参照）のコルク層を薄くはぎ、変色しないうちに比色する。



ヨードでんぷん反応指数（でんぷんの消失割合）

(イ) 日本なし

収穫適期は糖度や果皮の地色からも判定できるが、食味で判定するのが最も簡便かつ正確である。「日本なし地色用カラーチャート」を使用する場合は、ていあ部の地色が多摩で4、幸水で3～4の時に収穫する。ジベレリンペーストを使用した場合、成熟期は5～7日くらい早まる。

イ 追 熟

追熟の適温はゼネラル・レクラークでは15～20℃、ラ・フランスは10～15℃である。追熟の揃いを安定させるため、収穫後、速やかに冷蔵施設へ搬入し、予冷する。予冷温度と日数はゼネラル・レクラークが0～5℃で15日、ラ・フランスが2～5℃で7～10日とする。

追熟完了の日安は果実を軽く指で押してみて、押し跡がつく頃である。また、ゼネラル・レクラークのように果皮が黄変する品種では、果皮の黄化や地色の抜けも参考にする。

ウ 長期貯蔵

貯蔵用の果実は適期に収穫したものを用い、収穫後は、速やかに冷蔵施設へ搬入する。

ゼネラル・レクラークは温度3℃、湿度約90%で約2か月間、ラ・フランスは温度0℃、湿度90～95%で約4か月間の貯蔵が可能である。

なお、長期間冷蔵貯蔵した果実の追熟は15℃以下の低めの温度で行う。

エ 病虫害防除

(ア) 薬剤散布（西洋なし）

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 ／10 a
9月中旬	ストロビードライフロアブル 2,000倍 又はナリアWDG 2,000倍	—	450 L

注) ストロビルリン単剤のストロビードライフロアブル及び同じ系統の混合剤であるナリアWDGは、薬剤耐性発達の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。

(イ) 輪紋病対策

樹勢が衰えると枝幹が被害を受けやすくなるので、樹勢を適正に保つ。発病枝は伝染源となるので、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

ゼネラル・レクラークやラ・フランスなどの中・晩生品種では「9月中旬」も重要な防除時期になるので、必ず薬剤散布を行う。

(ウ) 黒斑病対策（ゼネラル・レクラーク）

発病果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(エ) シンクイムシ類対策

幼虫が果実から脱出する前に被害果を採取し、7日間以上水に漬けるか、穴を掘り10cm以上の土をかぶせて埋める。被害果をそのまま放置すると次世代の発生源となるので、必ず処分する。

ナシヒメシンクイによる新梢の芯折れは見つけ次第切り取り、適切に処分する。

(オ) カメムシ類対策

断続的に成虫が飛来し、葉に産卵するので、卵塊は見つけ次第つぶす。ふ化幼虫は分散する前に捕殺する。

(4) 核果類のコスカシバ対策（おうとう、もも、うめ、あんず、すもも、ネクタリン）

生育期に枝幹部や地際部に樹脂（ヤニ）又は虫糞の発生が見られる場合は、削り取って幼虫を捕殺あるいは刺殺する。もしくは、虫糞を取り除き、ロビンフッドのノズルを孔に差し込み、薬液を噴射する。

(5) 共 通

ア 高温・乾燥対策

高温が続き、降水量が少なく、園地の乾燥が予想される場合は、早めにかん水を実施する。また、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。

果実の日焼け等の高温障害、花芽分化への影響を低減するため、積極的に各種資材による遮光等の対策をとる。

高温による着色の遅れに伴い収穫時期が遅れ過熟とならないよう、糖度や食味等の確認をしつつ適期収穫に努める。

収穫は、果実温が高い日中を避けて行い、収穫した果実は速やかに冷蔵庫に入れるか、日陰に置くなど鮮度保持に努める。

イ 風害防止対策

台風の接近や強風に備え、棚、支柱、防風網等を再度点検し、必要に応じて補強や補修等をする。また、幹や主枝などに空洞などが生じている樹、雪害を受けた樹や枝は支柱で支え、縄などで補強する。幼木は倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

気象情報に十分注意し、収穫適期に達した果実は、速やかに収穫する。

果実を加工用に仕向ける場合は、農薬使用基準上の問題がないことを確認する。

ウ 鳥害防止対策

野鳥による被害を防ぐため、以下の対策を行う。

(ア) 防鳥網

ムクドリ（サクラドリ）、ヒヨドリ、カラスなどの被害が大きいところでは、防鳥網を使用する。防鳥網の網目は35mm以下とする。

(イ) 防鳥糸

防鳥糸を張り巡らす場合は、鳥の種類に合わせた間隔（カラスの場合 1 m 以下）で張るようにするが、ヒヨドリは体が小さく、さらに飛行能力が高いため効果は低い。

(ウ) 爆音機などの防鳥器具

ディストレスコールを利用した音声機器や爆音機、かかしなどの防鳥器具は慣れが生じやすいので、同じ種類の器具を長期間使用せず、様々な器具を組み合わせながら短期間で変えるようにする。

ウ 施肥（基肥）

ぶどう、おうとう、もも、うめ、あんずの基肥は下表を目安に施用する。
施肥量は園地の土壌条件や樹勢によって加減する。

基肥の施用時期と施肥割合

樹種	施用時期	標準施肥量 (kg/10 a、成木)			施肥割合 (標準施肥量に対して)
		窒素	リン酸	カリ	
ぶどう	10月上～中旬	15	10	10	60～80%
おうとう	10月中旬	15	6	12	80%
もも うめ あんず	10月上旬	14	6	10	80%

エ 園地の清掃

病虫害は被害落葉や落下果実で越冬し、翌年の発生に影響するものが多い。また、園地が汚れていると野ネズミの被害を受けやすいので、落葉の収集や果実を除去するなど園地をきれいに片づける。

《 ツキノワグマ出没警報発令中！！（4月20日～11月30日） 》

- ・ 1人での作業をできるだけ避け、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に努めましょう。
- ・ 果実等の収穫残さや弁当の空容器などは、クマを引き寄せる原因となるため、農地に放置せず、適切に処理しましょう。
- ・ 農地周辺の藪を刈払って見通しを良くすることで、クマの隠れ場所を無くし、クマが農地に近づきにくい環境を整えましょう。
- ・ 詳細は県ホームページをご確認ください。

(https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/shizen/kuma_cyuui.html)

《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを！ 》

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。
詳しくは、お近くの農業共済組合まで、お問い合わせください。

《 農作業安全を心がけましょう！ 》

先日、りんご畑で草刈り機の下敷きとなり、農業者が死亡する事故が発生しました。農作業安全のポイントを意識しながら、「みんなで声がけ！安全確認」を心がけ、安全第一で農作業事故をなくしましょう。

《 盗難防止対策を実施しましょう！ 》

近年、全国各地で果樹や野菜などの農作物の盗難被害が発生しています。農林水産省ホームページに、農作物の盗難に係る注意を促すチラシ及び農作物の盗難被害の実態と対応策を整理したパンフレットが掲載されていますので、盗難防止対策の参考にしてください。

農林水産省「農作物の盗難防止対策を実施しましょう」

(<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/tounan.html>)

山火事など火災の発生防止に努めましょう！

次回の「特産果樹生産情報」第7号は9月30日（水）発表の予定です。